

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900078		
法人名	株式会社 ファミリーホームなか		
事業所名	グループホーム 五行の杜		
所在地	栃木県真岡市大和田288番地		
自己評価作成日	令和4年10月24日	評価結果市町村受理日	令和5年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和4年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月にオープンした施設で、自然あふれる環境と木材を多用したぬくもりのある建物です。隣接した畑では季節に合わせた野菜の栽培、木々は季節によって果物や花など咲き誇り、野菜や果物を収穫していただく事で肌と視覚で季節を感じて頂いております。理念といたしましては「いつでもその人がその人らしく楽しみをもって生活出来るように支援いたします」と掲げ、ご入居様一人一人の個性に合わせた支援を目指しております。コロナ感染症が緩和されたとはいえ、まだまだ外出出来ない状態が続いているのが現状です。天気の良い日の近所の散歩や日々のレクリエーションは勿論、毎月のレクリエーション行事にも力を入れております。「一日一笑」と五行の杜独自の目標を掲げ、どのような状態のご入居様であっても一日一回は笑っていただける様ご支援し笑顔の絶えない施設づくりを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の思いや意向を把握するために、職員は出勤したら、利用者一人ひとりと目線を合わせて挨拶することを習慣としている。毎日、目を合わせることで、利用者のちょっとした心身の変化に気付くことができています。
- ・職員は利用者を年長者として敬意を払い、利用者の名前呼び方や言葉掛けに十分配慮して支援している。
- ・利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるように、毎日、午前中は入浴できる体制としている。利用者の身体状況に応じてリフト浴も完備されている。利用者がゆっくり湯につかり満足できるように取組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に事業所として、基本方針理念を定め、掲げている。理念を朝のミーティング時に職員で唱え、全職員が理念に近づけるように日々支援を行っている。	職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和して意識付けを図っている。月1回のミーティングや日々利用者に関わる時に、理念に沿って実践できているかどうかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で未だ自治体との交流は出来ていないのが現状である。収束したのちは、小学校の運動会や、自治体の秋まつり等と連携を保ちたいと考えている。	自治会に加入しているが、コロナ禍のため交流は自粛している。毎月区長が事業所に広報誌を届けてくれる際に挨拶を交わす程度である。コロナ禍前は、地域の神社の祭りや小学校の運動会に招待されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議などを通じて地域に発信していたがコロナ禍で閉鎖的になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は未だに行うことが出来ない。施設内での取り組み内容、ご入居様のご様子を運営推進会議メンバー代表者様に書面で送付している。	利用者や家族の代表、区長、民生委員、交番、地域包括支援センター職員が委員となっている。コロナ禍のため対面での会議開催ができず、事業所の活動内容を書面で送付している。	運営推進会議が有意義な会議になるために、送付する書面内容に対して意見がもらえるような書式や書き方等を見直されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいき高齢課や地域包括支援センターと連携をとり利用状況や報告を行っている。運営に関する最新の情報もいただいている。	市の担当者とはメールや電話で連絡を取り合っている。介護認定の結果について疑問に思うことを率直に聞ける関係ができている。市からもコロナの感染状況や近くの川が氾濫しそうな場合には連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に内部研修で学んでいる。身体拘束で起きるご利用者様への弊害を念頭におき支援をしている。	身体拘束廃止委員会を2か月に1回開催し管理者やケアマネージャーが中心となり内部研修を実施している。研修に動画視聴を取り入れる等工夫している。普段から利用者への声かけや見守りを徹底し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、内部研修で学び誤った支援でご利用者様に弊害がおきぬ様、また職員間でも虐待が見過ごされる事のないよう細心の注意を払って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様がおられる為、後見人との連携、最新の制度を調べ学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすく説明は勿論、その後のご利用者様のご様子もお知らせし信頼関係を築き質問しやすい環境作りに努めている。解約や改定時も理解できるように説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様と信頼関係を築き意見や要望を雑談の中で聞き出している。ご家族の要望も出来る範囲でお聞きしている。	利用者からは普段の会話を通して意見や要望を聞いている。家族からは電話や面会時に意見や要望を聞いている。感染症予防のため家族の面会や外出、外泊の希望を制限しているが、玄関先で短時間の面会を実施する等、できる範囲で行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として、日々のミーティングや日常でコミュニケーションをとりだされた意見は実行させ、成功時は共に喜び意欲向上に努めている。	管理者は、毎朝の申し送りや毎月のミーティングで職員の意見を聞いている。管理者が現場に入り、現場の状態を職員と共有できるため、職員の気づきやアイデアをスムーズに運営に取り入れることができている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に移設に立ち寄り職員の働きぶりを評価した声かけ、評価に適した報酬を行っている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量に合わせた研修などに行く機会を勤務内に与えている。コロナ禍で参加できなかったがオンラインを取り入れたので今後は様々な研修に参加していきたいと考える。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為同業者との行き来は難しいが、電話などで交流、意見交換を行いサービスの質の向上に常に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する際はご利用者様の生活歴を職員間で把握し、不安を取り除けるよう話し合い、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様だけでなく、ご家族の不安に感じていることも探り、寄り添いご家族様が安心出来るように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に介護保険の情勢を把握し、必要時提供できるよう努めている。サービスを開始する際時間かけて話し合い最初に必要な支援を探るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を支援される立場だけでなく、出来る事はご自身で行って頂き時には職員もご入居様様から様々な事を教えて頂きながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご家族と触れ合う機会を持つことが難しい。広報誌発行の際はお一人お一人の様子を写真を添付しお送りしている。また困りごとがあったらご家族に相談しお知恵をお借りし共に支えて行くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で未だ交流は持てない。日々の雑談でご家族様のお話し等を取り入れ関係性の継続に努めている。	コロナ禍のため外部者との交流は控えている。コロナ禍前は、友人や仕事仲間だった人が訪ねて来ていた。事業所では来訪者をもてなし、楽しく過ごせるような雰囲気づくりに努めていた。	コロナ禍が落ち着いたら、以前のように馴染みの友人を迎え入れたり、家族会を再開することを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性なども考慮し席順など十分な配慮を行っている。職員がお一人のご入居様と雑談する際は周りのご利用者様にも関わって頂きお互い関わり合いが持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時はご利用者様が次に最も適したサービスを受けられるように情報提供し、移り住む関係者施設にはご利用者様の今までの情報を詳しく伝えている。またサービスが終了してもいつでも相談にのれることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様が意のままに暮らしていけるよう各々の生活歴を十分に理解し希望に添えるよう支援している。困難な場合は職員間で情報収集を行いその人らしく生活出来るように努めている。	職員は出勤したら、まず利用者一人ひとりと目線を合わせて挨拶することで、利用者の変化に気付けるようにしている。利用者との雑談や表情、仕草から思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との雑談の中で、昔話や趣味をお聞きし支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートを活用し、可能な限りご利用者様のおペースで生活できるよう努めている。また職員全員がご利用者様の残存能力を知り引き出せるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング等でご利用者様の現状を十分話し合い、また時にはご家族様の要望も取り入れ、ご入居様にとって最適なプランが作成できるように努めている。	毎月のミーティングで、モニタリングやカンファレンスを行い、本人や家族、職員、主治医の意見を介護計画に反映している。本人と家族の要望が相反する際には、双方の思いをそれぞれに伝え、本人本位で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな気づきも個別に記録に残し、職員間で共有し、改善などを行いながら介護計画に反映出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添い等ご家族だけでは対応が出来ない時は職員も同行している。ご家族様が遠方の場合ご家族様の希望があれば受診にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの特徴上地域の資源を活用するのは難しい。コロナ禍で外部からのボランティアを受け入れるのも未だ難しい。毎日のリハビリ体操や季節を感じる事が出来るレクリエーション等少しでも楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族様の意向に沿って受診して頂いている。ご家族様だけの受診が多い為現状をかかりつけ医に書面で知らせている。半数以上の利用者は訪問診療と連携し適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を半数の利用者が継続している。家族が受診対応しているため普段の様子を箇条書きにして渡し、受診してもらっている。他の利用者は訪問診療を希望し受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師は不在。日頃からバイタルチェックは勿論様子も観察している。状況に応じてかかりつけ医の看護師や医師に指示・アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートを活用している。病院関係者との関りはコロナ禍の為電話のみにとどまっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りケアは出来ない事をご理解して頂いている。施設で十分なケアが出来ない状態になられた時にはご家族と連携をとり対応している。	契約の際に看取りケアを行っていないことを説明している。褥瘡の処置等、医療的処置が増えてきた場合には、適切なサービスを受けられる施設等の情報を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時に即座に対応できるか、特に夜勤帯に関しては1人での体制なので不安がある。定期的な急変時の対応についての勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	五行河が近くにあり河川の氾濫が心配。ハザードマップを常備している。火災を想定した避難訓練も年2回行っている。災害時の食料の備蓄はしている。BCPの研修も考えていく。	事業所の近くの河川が氾濫した場合の対策として、同法人の別事業所に早めに移動することになっている。火災想定避難訓練は消防署立会いで、利用者と一緒に年2回実施している。	事業所の周辺には住宅が少ない。夜間時の災害に備えて、避難訓練に地域住民の参加や協力を得ることが必要である。今後は、地域との協力体制を築くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても人生の先輩として尊重してトイレ誘導・入浴もご本人の意思を確認しながら対応している。排泄の失敗時は自尊心を傷つけない様に言葉かけなど配慮している。	利用者を年長者として敬意を払い、名前を呼ぶ際は、名前でさん付けにしている。リハビリパンツを穿く際も下着と言い換えて、利用者の誇りを傷つけないような声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう普段会話に工夫している。また日常でもご利用者様が思いや希望を言える雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	筋力低下・嚥下機能の低下を防ぐためにレクリエーションを日々の生活に取り入れている。無理強いはせずに健康に弊害がないように意のままに過ごしていただいている。可能な限りで出来る事にはお応えしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装をアドバイスしながら利用者様の意向に沿った服装で過ごしていただいている。2ヶ月に1回は散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々に合わせた食事形態、食器に工夫をしている。誕生日には利用者の希望を取り入れながら行事食を取り入れている。出来る能力に応じて片付けをお願いしている。	利用者と職員がともに準備や片付けができるように、軽量の食器にしたり、ワゴンを活用して運んでいる。敷地内の農園で利用者と一緒に野菜を収穫したり、誕生日や行事食で何が食べたいのか希望を聞く等、食事を楽しくするようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態に合わせた食事量、食器を工夫している。残食・水分摂取量が少ない時は職員が声かけて摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは欠かさず行っている。ご自身で出来る方はご自身で、介助の方は職員が行っている。数名は歯科訪問診療を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを知り定期的にトイレ声かけを行い排泄が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄の仕方を把握し、仕草や時間を見て誘導し、トイレで排泄できるように支援している。夜間のみ、睡眠を妨げないようにベッド上でおむつやパッドを交換している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操の参加・水分の摂取を促している。排泄チェック表を活用し、無排便が続く方は医療機関に相談し服薬コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は午前中に入浴して頂いている。曜日は決めずに定期的に入浴して頂けるようになっている。状態に応じてリフト浴を取り入れ安全にゆっくりと入浴して頂けるようになっている。入浴時は職員は利用者より深くコミュニケーションをとり入浴が楽しみになるよう支援している	利用者が入浴しなくなったらその日に入れるように、毎日、午前中を入浴の時間としている。利用者の身体の状態に応じてリフト浴も完備されている。季節を感じられるようにゆず湯にしたり、職員とゆっくりお喋りしながら湯船につかる等、利用者が満足できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設内での生活の流れはあるが、利用者の意向に沿って就寝して頂いている。また、安心して就寝できる声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった際は、全職員に周知し健康状態観察を徹底している。処方箋などすぐに確認できる所に保管し薬の内容をいつでも確認できるようにしている。また状態の変化が見られた際はかかりつけ医に詳しくお伝えするように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を知り、能力に合わせて日々の洗濯物たたみの家事、畑づくりや花の栽培、新聞の購読やテレビ鑑賞をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は困難。天気や体調を考慮しながらウッドデッキや庭に出て体操や、散歩をしたり季節の草花・野菜・果樹の狩りなどで楽しみをもって季節を感じて頂けるように支援している。	天気が良い日は近くの神社まで散歩したり、リビングから続くウッドデッキに出て気分転換を図っている。敷地内の農園で野菜に水をやったり、果物をもいだりしている。コロナの感染状況を見ながら、市内の公園に紅葉狩りを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者がご家族にお小遣い金をお預かりし、必要なものや欲しいものがあつた時にはご家族に確認し購入している。利用者が金銭の取り扱いをすることは無い。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があつた際は、家族に電話をつなぎ交流をとって頂いている。電話の取り次ぎの際は1人になれる環境を極力作っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木材を使用しており、採光に配慮されており多くの光を浴びる事が出来る。ホール内には季節に沿った花などを生け季節を感じて頂いている。温度、湿度に気を配り、換気は、徹底している。	ホールは木目調の温かみのある造りで、吹き抜けの天井窓から自然光が入る。季節の花が活けられたり、利用者と職員で作った季節に合わせた貼り絵が飾られている。感染対策として、換気が2時間おきに15分間実施され、加湿器が3台設置されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全て個室をご利用いただいている。利用者は自室で1人で過ごす時間も自由に過ごしていただいている。リビングにはソファを設置し気のあつたお仲間様と話されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にご本人様のなじみの家具や日用品をお持ちいただいている。	居室にはベッドとクローゼットが備え付けられている。本人が気に入っているイスや家族の写真、テレビ等、使い慣れた物を持ち込み過ごしている。居室の表札は木製で、利用者自身が記名し掲示されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を開ければ常に職員の顔が見られる環境。死角の居室もあるが声を出せばすぐに職員が対応できるようにしている。トイレや居室に目印などをつけ分かりやすく整備している。			